



市埋蔵文化財センター

☎ 23-8020

33

どきどき
たいむとらべらー

浄蓮庵と龍水如活禪師

浄法寺診療所の裏手の山に、かつて浄蓮庵というお寺がありました。江戸時代に廃寺となり、今ではわずか数基の墓石が残るだけで他には何もありません。しかし大正時代、赤塚治持によって書かれた「浄法寺古社寺跡」には往時の様子が記され、原敬の菩提寺で有名な黄檗宗大慈寺には、末寺として「由緒書」が遺されています。その浄蓮庵について、このほど福島県南会津から新しい情報を得ることができました。

それは、享保四年（1719）から寛保元年（1741）にかけて南会津地方を拠点とし、薬草の処方や医療を施した禅僧・龍水如活との関わりです。如活は確かな医学的知識と人徳により、広く慕われた人物ですが、身分を明かさなかつたために経歴にはなぞが多く、特に会津以前の状況については「山形の生まれで元禄のころ黄檗の修行をし、20年余り南部の地を放浪していた」という程度しか伝わっていないのさうです。

ところが企画展開催のために調査を重ねるうち、南部在住の元禄時代、浄蓮庵二代目住職痴外から教えを受けたことがわかりました。つまり、如活は一時期を浄法寺の浄蓮庵で過ごしたというのです。

いただいた史料を拝見したところ、如活の弟子の中に「南部花輪町小田島玄秀」という名がありました。思わず浄蓮庵の跡地が浄法寺の小田島家の所有であること、その小田島家は、かつて花輪から浄法寺に移り住んだこと、跡地にあった月待庵という小田島家の別荘には、明治の初めまで松島文雪という医師が住んでいたこと、などがいつきに思い出されました。興味は膨らむばかり…。

南会津と浄法寺の資料館では、この少しミステリアスな禅僧を巡って調査のやり取りが続いています。



昔、浄蓮庵があった場所

こみやてaたいむ

43種目

小さな城跡探検隊

皆さん“小さな城跡探検隊”って聞いたことがありますか？

“小さな城跡探検隊”は（財）岩手県建築士会二戸支部が地域貢献活動の一環として二戸地域の城跡の調査を行う団体です。平成19年度から21年度までの3年間にわたり奥州街道沿いを中心に二戸管内の城跡の調査をしました。

でもどうして“小さな城跡”を調査したのでしょうか。

この二戸地域の城として、豊臣秀吉の天下統一最期の地として有名な、九戸政実の居城は、「九戸城跡」として残されており、それ以外の城についてはあまり知られていないのが現状です。

そこで九戸城以外の城にも様々な歴史や逸話があるのでということで“小さな城跡探検隊”が結成され調査・研究を進めてきました。またこの組織は城や館の調査により、これらが地域の宝として地域住民のより所となり、また維持保全が行なわれるよう、地域住民の自発的行動を促し、その啓蒙活動を

行うために組織されたものです。

そして、このたび「奥州街道（二戸管内）街道沿いの城館」という調査をまとめた本が作られました。この本には奥州街道沿いの城や館とその周辺についてのお話、その他伝説などが掲載されております。

11月7日に地域活動組織のよりんせ金田一が行なった「奥州街道・蓑ヶ坂を訪ねて」というツアーでは、小さな城跡探検隊のメンバーがガイドを行ない、「釜沢城」についての他、「乳の宮」、「蓑ヶ坂」についてのお話がありました。このように“小さな城跡探検隊”と地域の活動組織が連携して、地域の宝を紹介する活動も出てきています。

この本に興味のある人は次の連絡先までご連絡ください。

連絡先（財）岩手県建築士会二戸支部事務局 馬淵（☎ 23-3040）、小さな城跡探検隊長 嶋野（☎ 27-4497）



「奥州街道（二戸管内）街道沿いの城館」をまとめた小さな城跡探検隊の皆さん

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課（内線 652）まで